

令和4年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 企救丘 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和4年6～7月に、5年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思えます。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部です。

1. 調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

(2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市・本校の実技調査の結果

<男子>

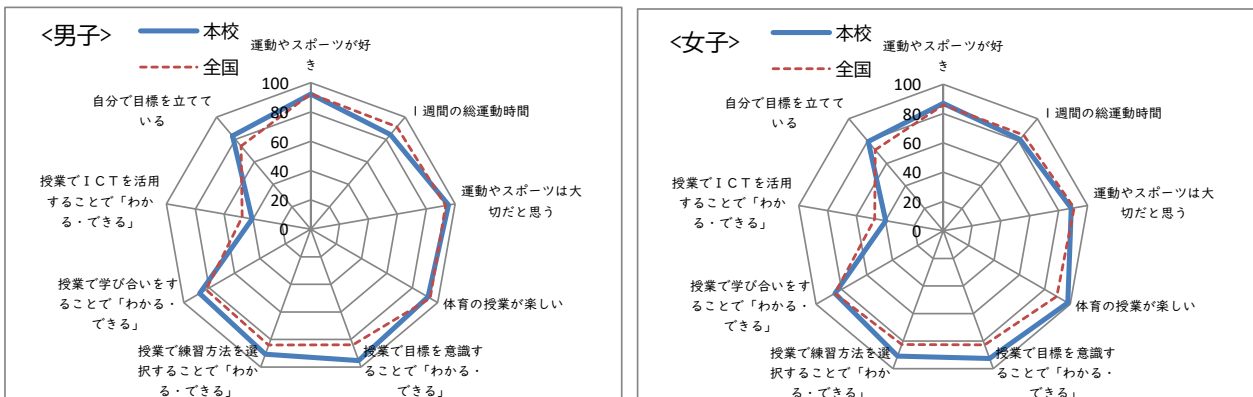
本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.21	18.86	33.79	40.36	45.92	9.53	150.83	20.31	52.28
本市	16.29	18.72	34.05	39.47	46.86	9.51	151.13	21.34	52.55
本校全国平均以上の種目							○	○	

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.10	17.97	38.18	38.66	36.97	9.70	144.55	13.17	54.31
本市	16.24	17.46	38.12	37.90	38.13	9.69	144.81	13.31	54.12
本校全国平均以上の種目	○		○				○		

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



質問紙調査の結果分析

体育の授業においては、授業の始めにめあてを掲示することで、目標を意識しながら練習方法を自分で選択し、お互いに学び合いながら楽しく活動に取り組むことができています。しかし、1学期初めの調査では、ICTを積極的に活用できていると実感している児童が少ない。2学期以降は、体育科でICTを活用した学習を多く取り入れており、今後の結果は改善がみられると思われる。また、1週間の総運動時間数も低く、体育学習以外の運動時間を確保していくことが課題である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科（授業）に関する取組（全校で・学年で・学級で）

児童が自ら考え、選択し、お互いに学び合って学習できる授業づくりを、以下の項目を重点的にを行い、実践していく。

- ①一人一人の意欲を高める教材開発を行う。
- ②ICTを活用した、児童が主体的に考え活動する場づくりを設定する。
- ③「できない」から「できる」へと導く、個に応じた場づくりを設定する。
- ④学習を振り返り、次の学習につなげる学習カード等の指導方法の工夫を行う。
- ⑤高学年では、教科担任制のよさを生かした、専門的な学習による、より深い学びを推進する。

② 運動習慣等に関する取組（1校1取組）

休み時間に行う「きくがおかタイム」（ダンスや縄跳びタイム）を行ったり、委員会活動におけるスポーツ集会等で外遊びを推奨する活動をしたりして、休み時間に外に出て遊ぶ機会を増やし、運動の日常化を図る。